



生まれ変わったベイエリア

(WCTから)

天保山のおはなし 第五話

物流の拠点として繁栄していた築港地域でしたが、昭和40年頃になるとその機能は南港へと移っていきました。それに伴い倉庫群の姿は徐々に少なくなり、地下鉄が開通したり住宅地として整備されるなど、天保山周辺の街並も変化しました。1980年代半ばからウォーターフロント開発が盛んになり、天保山一帯の再開発が進められるようになります。また、高速道路や大きな橋が開通するなど交通の便も整えられていきます。

1990年(平成2年)には、海遊館やマーケットプレイスを中心とする天保山ハーバービレッジが開業し脚光をあびます。つづいて、サントリーミュージアムやホテル、大観覧車などが次々とオープンし、天保山一帯は楽しい遊びのスポットとして生まれ変わりました。また港ならではの風景も魅力のひとつで、海に沈み行くきれいな夕日や岸壁に着岸する豪華客船を見ようと、たくさんの人が訪れます。



クイーンエリザベス2(70,327総トン)
(3/7入港予定)

さまざまな苦難を乗り越えて、全国から注目される大阪の観光名所となった天保山。その様子は、江戸の頃「浪花の新名所」としてにぎわった時代を彷彿させているかのようです。いつの世にも天保山は皆さんに愛され親しまれています。

そんな天保山ですが、1993年(平成5年)には国土地理院が発行する地形図から山が削除されてしまいます。長い歴史を辿ってきましたが、この後、天保山はどうなったのか!それは次号のお楽しみです。



大関門に沈む夕日



海から撮った海遊館